

平成 20 年度 4 月～9 月
北海道環境パートナーシップオフィス運営業務
報告書

財団法人北海道環境財団

目次

1	はじめに.....	1
2	業務の目的.....	1
3	業務の概要.....	1
4	業務の実施状況.....	1
	(1) 環境保全・環境政策をめぐる対話の促進事業.....	1
	(2) 環境パートナーシップ事業の実践.....	4
	(3) 環境パートナーシップの形成に資する情報の収集と発信.....	15
	(4) EPO 北海道の周知.....	15
	(5) EPO 北海道の運営.....	17

1 はじめに

財団法人北海道環境財団では、平成 20 年度業務実施計画に基づき北海道環境パートナーシップオフィス（以下「EPO 北海道」という）運営業務を実施している。本報告書は、平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日までの 6 ヶ月間の事業内容を報告するものである。

2 業務の目的

平成 15 年 7 月に制定された「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」（法律第 130 号）第 19 条において、環境保全の意欲の増進を効果的に推進するための拠点としての機能を担う体制を整備することとされ、また、基本方針（平成 16 年 9 月閣議決定）において、地域のパートナーシップづくりの支援拠点をブロックごとに設置していくこととされている。

これに基づき、EPO 北海道においては、市民、NGO/NPO、行政、事業者等、社会を構成する主体の環境保全への意欲の増進と環境保全への取組の推進の基盤形成を促進することを目的としている。

3 業務の概要

本業務においては、以下の 5 つの項目を実施することとしており、これに基づき、所要の事業を実施した。

- (1) 環境保全・環境政策をめぐる対話の促進事業
- (2) 環境パートナーシップ事業の実践
- (3) 環境パートナーシップの形成に資する情報の収集と発信
- (4) EPO 北海道の周知
- (5) EPO 北海道の運営

4 業務の実施状況

- (1) 環境保全・環境政策をめぐる対話の促進事業

ア 意見交換会の開催

- 1) 環境コミュニケーションツアー

環境コミュニケーションツアーとして、環境政策に関する意見交換会（稚内開催、帯広開催）についての開催準備を行った。

概要を表 1 に示す。EPO 北海道では、これまで全道各地で意見交換会を開催してきた。3 年間で、全道 6 圏域全域で開催することを目標としているが、本年度はこれまで開催していなかった、宗谷地域、十勝地域での開催を企画している。それぞれのテーマは、環境教育、NGO/NPO・企業政策提言事業を設定した。

当期においては、企画立案と宗谷地域のキーパーソンへのヒアリング、十勝地域での企画立案、現況調査を行った。宗谷地域においては、今後日程調整等を行い開催する。十勝地域においては、今後キーパーソンへのヒアリングを行いつつ、開催を目指す。

表1 環境政策に関する意見交換会（以下、予定）

タイトル	環境政策に関する意見交換会
目的	道内各地における、環境省、地方自治体、地元市民団体、企業等との環境コミュニケーションを促進する。
日時・場所 テーマ	11月中旬 稚内市：環境教育に関する意見交換会 11月中旬 帯広市：政策提言に関する意見交換会
概要	<p><稚内市></p> <p>宗谷地域は新エネルギー活用事例が多く、また利尻・礼文・サロベツ国立公園もあり、地域の環境資源が地域づくりへ大きく寄与している。環境教育という面でも、このような資源をつないでいくことで、子どもだけではなく、大人も対象となる感動あふれる環境教育の場となる可能性がある。そこで、宗谷地域での環境教育の発展を大目的とし、環境活動情報の共有と整理、そして環境教育の場としての展開方策を環境省も含めて議論する。</p> <p><帯広市></p> <p>環境省では2005年から毎年、環境政策に関わる提言をNPO・企業から求め、優れた提案をブラッシュアップして環境政策に組み込むことを続けている。十勝地域は、バイオ燃料やバイオガス、エゾシカの有効利用等の地域の環境問題を逆手に利用した環境ビジネスが盛んである。さらに、帯広の森や十勝千年の森など、地域環境の保全から展開して十勝ならではの環境をエコツーリズムに活用するなど、いろいろな分野で極めて先進的でアイデアに富んだ地域であり、ここで所要の意見交換を行う。</p>
期待される 成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宗谷地域全体として、環境教育を行っている方々のネットワークの構築 2. 十勝地域からのアイデアを政策案として蓄積できる 3. 環境省と地域の意見交換が進む
進捗状況	<ol style="list-style-type: none"> 1. 稚内開催については、地元の情報収集と、キーパーソンへの説明を行った。現在は、参加者への事前説明と日程調整を行っている段階である。 2. 帯広開催については、地元の情報収集を終え、キーパーソンへの説明を行うところである。
主催・共催	EPO 北海道、宗谷支庁（予定）、環境省北海道地方環境事務所等

2) G8 サミット環境パートナーシップ連絡会議

G8 北海道洞爺湖サミットに関連する環境分野の情報共有を目的として、関係行政機関、経済団体、NPO・NGO等の担当者レベルで「G8 サミット環境パートナーシップ連絡会議」を開催した（表2）。この会議で、関係機関がサミットに向けての情報交換をすることによって、他機関の動きを知ることと同時に、重複する部分のある取組については連携を検討するきっかけとなった。

行政機関においては他の会において情報共有は進んでいたが、本会は市民サイドの参加もあり、行政サイドとの交流の場となった。

第5回はG8 サミット終了後の開催であり、各機関の近況を共有するとともに、この会の今後の運営や位置付けについて議論した。

表2 G8サミット環境パートナーシップ連絡会議開催実績

G8サミット環境パートナーシップ連絡会議開催日	
第3回	平成20年4月21日(月) 10:30~12:00
第4回	平成20年6月11日(水) 13:00~14:30
第5回	平成20年9月29日(月) 13:30~15:00

イ 情報共有の仕組みづくり

中間支援拠点・組織間で情報共有を行う仕組みを検討した。メンバーは、財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ、NPO 法人北海道市民環境ネットワーク、EPO 北海道の4者。概要を表3に示す。これまで中間支援組織間で、このような情報共有や協働プロジェクトを促す場はなかったが、これによって各組織の情報の共有が進み、また、協働プロジェクトへの機運が高まった。3回シリーズで開催したが、その必要性が挙げられ、今後も継続していくこととなった。

表3 環境分野の中間支援拠点・組織連絡会議

タイトル	環境分野の中間支援拠点・組織連絡会議	
目的	札幌圏域の環境分野の中間支援拠点・組織の連携強化、業務の効率化、サービスの向上。	
日時	第1回：7月14日（月）14:00～17:00 第2回：8月21日（木）14:00～17:00 第3回：9月30日（火）14:00～17:00	
会場	第1回：北海道環境サポートセンター 第2回：札幌エルプラザ 第3回：北海道市民環境ネットワーク	
参加者	16名	
概要	<p>札幌圏域の環境分野の中間支援拠点・組織スタッフ及び関係行政機関の担当で、4組織の概要や課題、強み、弱み、ならではの活動、現在力を入れている活動、将来力を入れたい活動、そして、具体的に協働できるプロジェクトについて議論した。各回テーマ及び概要は下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回：知る・共有する 4拠点・組織の概要とその補足説明、課題の抽出、課題の整理と認識と共有を行った。ここで各組織の強み・弱みを抽出した。 ・第2回：語る・描く ビジョンを語り、役割分担、棲み分け、協働、連携のアイデア出しを行い、各組織の具体的な取組の情報交換、具体的に何かできそうかを描いた。 ・第3回：考える 具体的に4組織協働で「ユーザー」に提供できるものは何か、継続的意見交換と「ユーザー」意見の反映方策、について検討した。 	
成果	<p>改めて顔の見える関係づくりを行うとともに、4組織間の現状共有ができた。また、それぞれの強み、弱みがわかった。強みとしては、ネットワーク力や情報発信に関するものが多く、弱みとしては専門性や組織運営等に関するものが多く挙げられた。4組織協働でできるユーザーサービスとしては、情報分野に多くのアイデアが出され、それぞれのネットワークを生かした情報発信による業務の効率化を含め、情報の一元化ということがキーワードとなった。また、会議は当初3回ということで始めたが、継続していくこととなった。</p>	
課題	<p>3回の会議では、具体的な4組織協働プロジェクトは生まれなかった。今後、会を継続し具体的なプロジェクトとしていく必要がある。また、ユーザーの声を聞く会の必要性が挙げられた。</p>	
主催・共催	EPO 北海道	

(2) 環境パートナーシップ事業の実践

ア 企業の社会的責任（以下 CSR）に基づく環境保全活動の促進及び各主体との連携支援

1) NPO・NGO等の道内環境保全活動とのマッチングの機会を提供

① 環境総合展での展示

6月19日から21日の3日間。G8サミットの直前に開催された環境展「環境総合展」に出展し、企業のパートナーとのマッチングを目的としたNPO・NGO活動のパネル展を行った。マッチングを希望するNPO・NGOからパネルを公募し、計19団体が集まった。当日は、掲載団体のパンフレット等も配布し、企業担当者等へ周知した。

② コミュニティ・ファンド等を活用した環境保全活動推進事業

環境省が行っている「コミュニティ・ファンド等を活用した環境保全活動推進事業」について、NPO法人北海道NPOバンクや財団法人北海道環境財団等が運営する「元気な北海道コミュニティ・ビジネス推進協議会」に参加した。この事業は昨年度からの継続事業であり、道内のコミュニティ・ビジネスの支援を行うものである。

今期においては、前述の協議会の立ち上げ時の打ち合わせや、融資対象となった「NPO法人森の生活」への支援内容についての議論に参加した。

また、東京で開催された「平成20年度コミュニティ・ファンド等を活用した環境保全活動推進事業キックオフ会」にもNPO法人北海道NPOバンクとともに参加し、昨年度の支援状況や今年度の支援の内容案について報告した。

今年度の支援内容としては、下記のように予定している。

- ・ GEIC（東京・青山）での広報（パネル等）
- ・ EPO北海道ホームページでの広報（特集コンテンツの作成）
- ・ 上記協議会が開催する支援ワークショップの支援

③ 株式会社ガリバーインターナショナル研修

詳細を表4、表5に示す。この事業は、株式会社ガリバーインターナショナルのボランティア研修をGEICが中心となり、全国EPOで受け入れた事業である。各EPOの役割としては、研修を行うNPO・NGOの紹介とコーディネートである。EPO北海道としては、NPO法人霧多布湿原トラスト及び、NPO法人富良野自然塾を紹介し、研修に関するコーディネートを行った。

研修の内容については、それぞれの団体との協議によって決定した。NPO法人霧多布湿原トラストでのプログラムは、湿原裏山の森林整備活動（ベニエの垣根作り）を中心としたものであり、このような活動を通じて、湿原の役割や保全と地域の活性化の両立の意義を学ぶものとした。

富良野自然塾のプログラムは、元ゴルフ場の森林再生を目的とした植林活動を中心としたものである。人間が生きていくうえで酸素と水は不可欠なものであり、それらを供給する森林の重要性、地球45億年の歴史の中で、人間が非常に短時間で環境を破壊してしまったこと等、環境共生の重要性を学びつつ、植林という行動を促すものであった。

両活動とも、地域で活動するNPOの姿勢やミッションについて十分に伝わったものと思う。企業活動へ直接つながる部分は少ないが、環境問題のベースの部分の知識も含めて、何かしら今後の事業に生かされるものとなったことであろう。

EPO北海道としては、全国的な企業と地域のNPOのマッチングができたことが大きな成果である。今回は試行的な取組であったが、同様のマッチングを行う上で大きな示唆を得た。今後は、株式会社ガリバーインターナショナルと今回受け入れた頂いたNPOとの関係

性が続くよう図っていくことに加え、新たなマッチングを生み出していければと思う。

表 4 株式会社ガリバーインターナショナル研修 in 霧多布

タイトル	株式会社ガリバーインターナショナル研修&ボランティア活動コーディネート	
目的	企業と地域の NPO との協働をコーディネートする。	
日時	7月16日(水) 10:00~17:30	
場所	霧多布湿原センター及びその周辺	
参加者	株式会社ガリバーインターナショナル社員 4名	
概要	<p>全国企業であるガリバーインターナショナル（以下ガリバー）の社員が、北海道から九州まで全国 9 カ所で、地域の特性に応じた環境保全活動を行った。企業ボランティアのコーディネートに実績のある東京ボランティア・市民活動センター（TVAC）と GEIC が総合コーディネートを行い、各地の環境保護団体とつながりのある 8 カ所の地方 EPO が、地域の環境保全団体とガリバーのコーディネートを行った。</p> <p>北海道では、2つの環境保全団体とのコーディネートを行った。ここでは、全国 3 番目の面積を誇る浜中町霧多布湿原をフィールドにナショナルトラスト活動を行う、NPO 法人霧多布湿原トラストでのプログラムについて記載する。</p> <p>NPO 法人霧多布湿原トラストのプログラムでは、湿原の役割や、保全と地域の活性化の両立の意義を学びつつ、湿原裏山の森林整備活動（ベニエの垣根作り）を行った。</p>	
成果	<p>霧多布湿原のプログラムに参加した社員は、前泊したことで団体スタッフとの事前の交流ができ、当日の活動をスムーズに進めることができた。湿原の保全も、地域の人との関わりを大事にしながら進めることに重点を置いていることが、社員の方々の共感を得られていたようだった。事前の研修の中で、森林整備が湿原保全とどのような関わりがあるのか、また何を目的としているのかを伝えたことで、今回のプログラムで行った作業が全体の中でどのような位置付けとなっていたのか認識できていた。作業終了後、活動の成果が「垣根」という形で見えていたので、ハードな作業ながら参加者の満足度は高かったようだ。EPO としても、全国 EPO が連携することによって、全国展開をしている企業と地域の活動をしている NPO との仲介をすることができた。道内の進んだ取組をしている環境保全活動団体を全国に発信するためのきっかけを作ることができたという点でも評価できる。</p>	
課題	<p>参加者全員が東京本社からであり、釧路や帯広の営業所の方の参加が得られなかったのは残念だった。今後は、コーディネート側としてガリバーと霧多布との繋がりが持続していくことを図りつつ、今後も継続して企業と NPO とのつながりを作っていく必要がある。</p>	
主催	<p>株式会社ガリバーインターナショナル×NPO 法人霧多布湿原トラスト コーディネート：EPO 北海道、東京ボランティア・市民活動センター（TVAC）</p>	

表 5 株式会社ガリバーインターナショナル研修 in 富良野

タイトル	株式会社ガリバーインターナショナル研修&ボランティア活動コーディネート	
目的	企業と地域のNPOとの協働をコーディネートする。	
日時	7月22日(火) 10:30~16:30	
場所	NPO 法人富良野自然塾フィールド (富良野プリンスホテル旧ゴルフ場)	
参加者	株式会社ガリバーインターナショナル社員 9名	
概要	<p>全国企業であるガリバーインターナショナル(以下ガリバー)の社員が、北海道から九州までの全国9カ所で、地域の特性に応じた環境保全活動を行った。企業ボランティアのコーディネートに実績のある東京ボランティア・市民活動センター(TVAC)とGEICが総合コーディネートを行い、各地の環境保護団体とつながりのある地方EPO(8カ所)が、地域の環境保全団体とガリバーのコーディネートを行った。北海道では、2つの環境保全団体とのコーディネートを行った。ここに、NPO法人富良野自然塾でのプログラムについて記載する。</p> <p>NPO法人富良野自然塾では、地球環境問題を地球の歴史をたどりながら解説し、人間がいかに急激に環境破壊を行ったのかを学びつつ、人間の生命維持に必要な空気と水を保持するために必要な森林の重要性を認識し、元ゴルフ場の森林再生を目的として植林活動を行った。</p>	
成果	<p>環境保全活動にあまり縁の無かった社員が初めて関わりを持つきっかけとして、富良野自然塾は経験豊富なスタッフが揃っているうえ、活動のフィールドもあり、最適であった。今回は東京本社だけでなく、苫小牧営業所からの参加もあった。当日天気が悪く、ボランティア作業よりも研修的な色が濃かったが、日頃あまり「環境」や「自然」といったことに馴染みのない社員にとって、良いきっかけとなったようだ。</p>	
課題	<p>当日天気が悪く、予定していた植林作業の時間を短縮したため、「ボランティア作業」に比べ、「研修」の色が濃くなり、「ボランティアとして地域に貢献」という点が弱かった。富良野自然塾は、団体としての基盤がしっかりとしており、プログラムも完成されている。逆に、ともに地域を支えているという雰囲気にはなりにくかった。また、苫小牧営業所の社員は、休みを返上して参加していたが、今後、もっと参加しやすい仕組みづくりが必要であろう。</p>	
主催	<p>株式会社ガリバーインターナショナル×NPO法人富良野自然塾 コーディネート：EPO北海道、東京ボランティア・市民活動センター(TVAC)</p>	

④ CSR情報の一元化

昨年度に引き続き、月1回程度、北海道でCSRを推進している関係者(北海道、札幌市、HES、岩井環境プランニングオフィス、財団法人北海道環境財団、EPO北海道)のミーティングを開催し、それぞれの主体の活動状況等についての情報共有を図った。定期的に情報を共有できる場ができたことで、企業の環境配慮に関する取組について、少なくとも担当者レベルでの整合性が取れてきている。本会は基本的に公開はしていないが、公開可能な情報

については CSR に関するサイト「北の CSR」内で公開し、周知を図っている。開催結果については表 6 のとおりである。

表 6 CSR 戦略会議開催結果

CSR 戦略会議開催日程	
第 11 回	4 月 9 日 (水)
第 12 回	5 月 14 日 (水)
第 13 回	6 月 11 日 (水)
第 14 回	7 月 17 日 (木)
第 15 回	8 月 12 日 (火)
第 16 回	9 月 11 日 (木)

⑤ セミナー等の開催

当期においては、「☆エコロジーな集合住宅、エコロジカルなライフスタイル～環境に配慮した理想の賃貸集合住宅を考える～」、「Panasonic NPO サポートファンド助成プログラム公募説明会」の 2 つのセミナーを行った。

- ・ ☆エコロジーな集合住宅、エコロジカルなライフスタイル
～環境に配慮した理想の賃貸集合住宅を考える～

詳細を表 7 に示す。分譲住宅や戸建ての住宅については、省エネに関すること等、環境配慮に関する情報は多いが、賃貸の集合住宅については殆ど情報が無いのが現状である。そこで、札幌の大家が集まってつくられた団体「札幌ガンバル大家の会」と協働し、このテーマについてセミナーを行った。また、GEIC とも共催し、東京にある「畑付エコ集合住宅」について事例紹介を依頼した。

ディスカッションでは、事例紹介された設備について、いくらでできるのか、効果はどれ程なのか、といったハード面の話に加え、住民と大家の関係性や、住民間で共有できるものはあるのか等、集合住宅を一つのコミュニティと考えることで、環境配慮が建物全体で行える可能性が挙げられ、そのコミュニティをどのように作っていくか、という点について議論がなされた。これから建設する物件については、建設段階から情報公開する等でコミュニティ形成を行い易いが、既存の物件ですぐにそれを行う場合は難点があるとのことであった。しかし、中長期的には目指すべき姿であるとの認識もあった。

参加者は、物件を持っている方や仲介業者の方等、すぐに実践できる方が多く、セミナー終了後、紹介された設備への問い合わせが施工業者にあったこと等、実行性のある会となった。

またこの会では、インターネット通信技術である Skype を活用し、東京の GEIC 館内と中継を行った。GEIC の館内のテレビに本会の模様が映し出され、来館者が足を止めて見入っていた。この技術は無料であり、全国 EPO ネットワークを活用し、地域を越えた交流を生む一つの手段となった。

- ・ Panasonic NPO サポートファンド助成プログラム公募説明会

詳細を表 8 に示す。この助成プログラムは、企業が将来のパートナーとして NPO の組織の基盤強化を図る事業である。EPO 北海道は、パートナーシップの促進につながる事

業として、公募説明会を NPO 法人地球と未来の環境基金と共催した。

この助成プログラムは、昨年に引き続きの事業となった。本年度は、より具体的に基盤強化を図るべく、せんだい・みやぎ NPO センターの加藤哲夫氏が講師となり、「組織基盤強化とは何か」、「どんなことをすれば良いのか」等の講習の後、企業分析でよく用いられる SWOT 分析等をワークショップ形式で実践するという内容であった。

本会のワークショップの結果は、助成プログラムへの応募に利用可能なものであると同時に、助成プログラムに申し込まなくても、十分に組織内で活用できるものであった。

また、本会の内容は事業の内部評価の手法であり、NPO・NGO に限らず、北海道内で環境活動を行っている又は支援している組織にとって非常に重要な内容であり、先に述べた環境分野の中間支援拠点・組織連絡会議の運営時にも参考にした。

表 7 ☆エコロジーな集合住宅、エコロジカルなライフスタイル
～環境に配慮した理想の賃貸集合住宅を考える～

タイトル	☆エコロジーな集合住宅、エコロジカルなライフスタイル ～環境に配慮した理想の賃貸集合住宅を考える～	
目的	集合住宅（賃貸住宅）をより快適に、よりエコにするにはどうすればよいのか、環境に配慮した「建物」や「設備」、「ライフスタイル」の事例紹介を行い、集合住宅でできる環境配慮を検討する。	
日時	6月14日（土）14:00～17:00	
会場	北海道環境サポートセンター	
参加者	50名	
概要	<p>【事例紹介】</p> <p>第1部 エコに配慮した集合住宅あれこれ プレゼンター：札幌ガンバル大家の会</p> <p>第2部 東京発！エコが変える新しい集合住宅のカタチ プレゼンター：地球環境パートナーシッププラザ 平田裕之氏</p> <p>【ディスカッション】</p> <p>第3部 エコをキーワードに多様な参画から見えてくる理想の集合住宅とは？</p>	
成果	<p>参加者は50名。物件を所有している大家さんが多かったが、不動産仲介担当者の方、リフォームを考えている一般の方等、このテーマに関してすぐに実行できる方が多かった。このことにより潜在的なニーズがあることがわかった。また、会の後、紹介された設備等について、いくつかの問い合わせや商談等も行われたとのことで、セミナーから具体的な行動につながったことは大きな成果であった。</p> <p>また、インターネット通信技術である Skype を使って、東京と札幌を中継するテストも行い、成功を取めた。このテストによって、今後、地域を越えた意見交換の場づくりができることがわかった。</p>	
課題	まだまだ始まったばかりの分野であった。ニーズはあるので、「集合住宅」に特化した事	

	例をより多く紹介できるように情報収集する必要がある。
主催・共催	札幌ガンバル大家の会、GEIC、EPO 北海道

表 8 持続可能な「団体運営」のために今できること！

～組織基盤強化セミナーと Panasonic NPO サポートファンド助成公募～

タイトル	持続可能な「団体運営」のために今できること！～組織基盤強化セミナーと Panasonic NPO サポートファンド助成公募～	
目的	NPO と企業間のパートナーシップ(協働)の取組を支援する。NPO の組織基盤強化。	
日時	7月26日(土) 13:00～17:30	
会場	北海道環境サポートセンター	
参加者	10団体 17名	
概要	<p>◆ 第1部 組織基盤強化セミナー 講師：加藤哲夫氏（せんだい・みやぎ NPO センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体の現状分析の方法（SWOT 分析の手法を使って課題の抽出） ・自団体の現状分析と課題の抽出～原因分析（ワークショップ） ・現状分析に関する講評、講義 ・参加者相互のグループディスカッション <p>◆ 第2部 Panasonic NPO サポート ファンド助成公募説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2009年助成事業応募要領 ・過去の助成先の事例紹介 	
成果	<p>昨年度は助成金説明が中心であったが、組織基盤強化セミナーを加えたことにより、活動助成・事業助成ではなく、「組織基盤強化を目的としている」という、この助成金目的が明確になった。</p> <p>ワークショップを通して、それぞれの組織が抱えている課題に対して、どのような視点から取り組めば良いのかを学ぶことができ、参加者からは助成金に応募しなくてもためになった、との声もあった。</p> <p>今回は、参加費を有料としたためか参加申込が少なく、北海道地域においてはまだまだ組織基盤強化について課題を感じていないのではないかと、また、組織基盤を考える余裕がないのではないかと、という懸念があった。しかし、参加者の満足度は高く、まだまだ潜在的ニーズがある分野と考えられる。</p>	
課題	<p>参加申込が少なかったことが大きな課題であるが、一方で、この程度の規模がじっくりと行うにはちょうどいいかもしれない。また、EPO 北海道や札幌の中間支援団体でこの部分をフォローできるようにする必要もあるだろう。</p>	
主催・共催	NPO 法人地球と未来の環境基金、EPO 北海道	

① 環境政策に関する情報共有化推進

昨年度に引き続き、各省庁、北海道が配布している環境に関わるパンフレットをインターネットから抽出。毎月 10 部ずつ EPO 北海道ホームページ上に掲載し、今期は合計 60 部を追加、公開した。掲載パンフレットの詳細については同ホームページを参照。

・公開アドレス

<http://www.epohok.jp/modules/xcgai/>

また、各省庁等の事業情報や予算情報等についても、道内市町村の環境基本計画の現況調査時にできた市町村、企業、市民等のネットワークを使い、メールや電話等で担当者に周知している。これまで、環境省事業（エコツーリズム大賞募集、一村一品事業、地方公共団体における地球温暖化対策の推進に関する法律施行状況調査結果及び調査結果を踏まえた対応について）、国土交通省事業（平成 20 年度「観光地域づくり実践プラン」の募集開始）、経済産業省事業（平成 20 年度農商工等連携対策支援事業（補助金）の公募及び公募説明会について）等、各省の事業や法律に関すること等について案内した。行政関連ではないが、ESD 事例等も周知している。

② 環境計画に資する対話の促進

宗谷地域及び、十勝地域において市役所等とも調整し、参加を呼びかけている。

ウ 持続可能な開発のための教育（ESD）の普及啓発

① 北海道内の ESD の取組の調査と普及啓発

道内の ESD 事例の収集を行った。NPO 法人霧多布湿原トラストの事例、礼文町における礼文高校の取組について整理し、EPO 北海道ホームページで公開している。また、EPO 北海道の持つ自治体へのネットワークを生かして事例紹介を行うとともに、いくつかの自治体には同様の事例が取り組める可能性がないか、意見を交換した。

・公開アドレス

<http://www.epohok.jp/modules/map/index.php?cid=2>

また、函館市の財団法人北海道国際交流センター等で開催している、ESD 連続セミナーの第 1、3 回について共催した。詳細を表 9、10 に示す。

表9 ESD連続セミナー第1回

タイトル	持続可能な開発のための教育（ESD）連続セミナー 第1回「開発教育/国際理解教育から考えるESD」	
目的	2005年より、国連・持続可能な開発のための教育の10年（ESDの10年）がスタートしている。様々な切り口から「持続可能性」を考える。	
日時	7月12日（土） 14:00～18:00 7月13日（日） 9:30～13:00	
会場	北海道国際交流センター	
参加者	12日33名、13日28名	
概要	<p>【7月12日（土）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティ1 世界の現状やその抱えている問題を考える1 『世界がもし100人の村だったら』（振り返り含む）ファシリテーター：JICA 渡邊氏 北海道教育大学札幌校 教授 大津 和子 氏 ・アクティビティ2 異文化共生の問題を考える1 『バーンガ バーンガ』（振り返り含む）ファシリテーター：HIF 池田氏 北海道教育大学札幌校 教授 大津 和子 氏 <p>【7月13日（日）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティ3 世界の現状やその抱えている問題を考える2 『貿易ゲーム』ファシリテーター：JICA 渡邊氏・HIF 池田氏 北海道教育大学札幌校 教授 大津 和子 氏 ・まとめの講義『開発教育を授業でどう生かすか』 北海道教育大学札幌校 教授 大津 和子 氏 ・質疑応答 北海道教育大学札幌校 教授 大津 和子 氏 	
成果・課題	<p>開発教育／国際理解教育に関心のある学校教員や教育大の学生の参加者が大半を占めていたため、教育現場に ESD という概念を落とし込むきっかけ作りとしては大きな成果があったと思う。また、単にワークショップを体験するだけではなく、参加者がそれぞれ現場に持ち帰ることができるよう、それぞれのワークショップ終了後に、発問の仕方や進め方が適切であったかどうかを講師が評価した。</p> <p>2日間連続のワークショップで、ほとんどの参加者は2日間続けて参加をして下さったため、充実した内容であったという印象を持つことができたようだった。</p>	
主催・共催	財団法人北海道国際交流センター（HIF）、EPO 北海道	

表 10 ESD 連続セミナー第 3 回

タイトル	持続可能な開発のための教育（ESD）連続セミナー 第 3 回 「「持続可能な社会とは？～愛媛とモザンビークのつながりから見えてくるもの～」	
目的	2005 年より、国連・持続可能な開発のための教育の 10 年（ESD の 10 年）がスタートしている。様々な切り口から「持続可能性」を考える。	
日時	9 月 27 日（土） 14:00～16:30	
会場	北海道国際交流センター	
参加者	28 名	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ ESD とは？えひめグローバルネットワークの活動紹介 スライドやビデオを用いて、これまでの活動を紹介した。 ・ ワークショップ：えひめグローバルネットワークの活動から世界へのつながりを考える 上記、活動紹介した内容について、参加者が自然環境に関すること、社会、経済に関すること等に仕分けしてから、それぞれモザンビークとどのようなつながりがあるのかを議論した。 竹内 よし子氏（えひめグローバルネットワーク）	
成果	武器アート等を通じた戦争と環境のつながりや、自転車をモザンビークへ送る活動を通して、日本で不要とされているものも世界では貴重なものであること等、私たちの身の回りの事象がどのようなつながりを持っているか、環境分野を超えて認識できた。また、教育大の学生の参加者が多く、今後の活動に期待ができる。	
課題	つながりを考えていくワークショップは、発想を膨らませていく部分が難しそうだった。少し練習が必要だったように感じる。しかし、竹内氏が各テーブルを回り解説し、議論が進んでいた。	
主催・共催	財団法人北海道国際交流センター（HIF）、EPO 北海道	

② ESD 担い手間の情報交流の促進

道内で ESD をテーマに活動している団体と、年度末を目処に道内の ESD 事例を集めて講演会を開催する予定である。現在、開催に向けて調整中である。

これについては、ESD-J が開催した「ESD 地域ワークショップ」（9 月 23 日）に併せて、北海道内の ESD 関係者と議論し、今年度のテーマや今後の情報発信について検討した。2 月開催とし、会の目的を「関係者の情報共有」と「ESD プログラムの開発」の 2 本柱とした。また Web での発信も行うこととし、できるだけ関係者に負担の少ない方法で発信することを合意した。

エ その他

① インターンシップや共同研究及びボランティア等、大学との連携

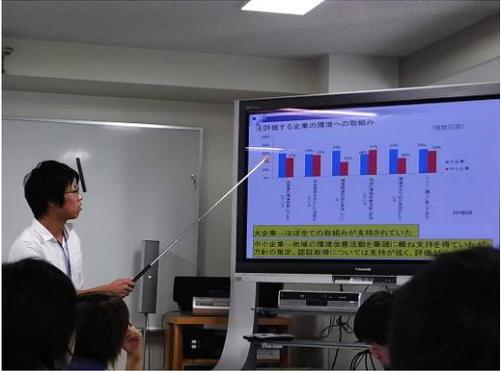
本年度は、札幌大学からのインターン生を受け入れたが（札幌大学のインターン派遣制度を利用）、インターンの学生の都合により、途中（8 月上旬）で中断した。その後、札幌大学の担当者とも議論し、今後も積極的に連携し、インターン生の受け入れを行っていくこととした。

また、昨年8月にインターンとして受け入れた、北海道大学公共政策大学院の学生のうち1名は、インターン終了後も自主的に研修テーマに沿った調査を継続し、9月9日にその成果発表会を行った。

成果発表会の詳細を表11に記す。環境NGO ezorock と共催で、「環境と仕事！あなたなりの「働く」を考える！（EPO 北海道×環境NGO ezorock presents）」として若者向けに開催した。自主研修である「企業の環境配慮に関する道内学生の意識調査」について成果発表を行い、その後、就職活動を終えた3名による就職体験発表を行った。この中で、学生時代の環境活動が就職を選定する際にどんな影響を与えたか等が語られた。

また、ワークショップも行い、環境と仕事について議論した。「どんな仕事にも環境が関係している」等、様々な仕事と環境の関係性が挙げられた。学生の参加者と社会人の意見交換が進み、両者に刺激があったようだ。

表11 EPO 北海道インターン研修発表会

タイトル	環境と仕事！あなたなりの「働く」を考える！ (EPO 北海道×環境NGO ezorock presents)	
目的	インターンの成果発表と併せて、若者向けに環境と仕事を考えることを目的とした。	
日時	9月9日（火）16:00～19:00	
会場	北海道環境サポートセンター	
参加者	17名	
概要	<p>【プログラム】</p> <ol style="list-style-type: none"> 報告「企業の環境配慮に関する道内学生の意識調査」 <ul style="list-style-type: none"> 北海道大学公共政策大学院 助川 洋平（元 EPO 北海道インターン） 事例報告「私は、〇〇で仕事を決めました！」 <ul style="list-style-type: none"> 北海道教育大学旭川校 白幡 恵美（環境NGO ezorock） 北海道大学大学院農学院 北條 堯士（環境NGO ezorock） 北海道大学公共政策大学院 助川 洋平（元 EPO 北海道インターン） ディスカッション「あなたは仕事を何で選びますか？」 <ul style="list-style-type: none"> ファシリテーター 宮本 奏（環境NGO ezorock） 	
成果	<p>インターンの成果発表の場をつくることができた。また、環境NGO ezorock と共催することで、環境と仕事というテーマで学生と社会人の意見交換の場にもなり、学生にとっては社会人の仕事感を、社会人にとっては学生の熱い想いに触れることとなった。FM ノースウェーブにも取り上げられ、社会的なニーズを感じた。</p>	
課題	<p>広報期間が少なかつたこともあり、参加人数が少なかつた。このテーマは人材育成という面でも非常に重要であり、今後とも機会を捉えて取り組んでいきたい。</p>	
主催	EPO 北海道、環境NGO ezorock	

(3) 環境パートナーシップの形成に資する情報の収集と発信

ア 上記(1)、(2)の事業等を通じた、環境パートナーシップの事例や情報の収集と発信
今期は、道内の環境パートナーシップ事例の追加はなかった。

イ 全国 EPO ネットワークを活用した環境パートナーシップの事例や情報の収集と発信

前述の株式会社ガリバーインターナショナル研修事業を通して、道外の事例を収集した。
この事業をきっかけに、全国 EPO ネットワークを外にもっと見せていくことを目的に
GEIC が中心となって「EPO ネット情報」のブログをスタートした。

(URL : <http://blog.canpan.info/eponet/>)

アクセス数や見せ方には、まだまだ改善点があるものの、全国 8 箇所の EPO が互いの
活動を把握するためのツールができた。

また、EPO 北海道が企画している意見交換会の企画書等を発信し、企画内容について
の意見交換、共有を図った。また、GEIC の運営する環境イベントデータベース「環境ら
しんばん」や GEIC のメールマガジンを活用し、EPO 北海道企画のイベント等について
の広報を行った。

ウ ホームページ等様々なネットワークや媒体を通じた情報の発信

環境パートナーシップに関する情報(各種団体ホームページ、セミナー、イベント、助
成金情報等)を収集し、EPO 北海道のホームページ及び、財団法人北海道環境財団が発行
する機関誌「TGAL」やメールニュース、同財団ホームページなどを活用して、情報の発
信を行った。

(4) EPO 北海道の周知

EPO 北海道を周知するために、①ホームページによる活動状況の発信、②道内各主体が開催し
たイベント・会議への参加を行った。

ア ホームページによる EPO 北海道の活動状況の発信

ホームページ内に掲載しているニュース等によって、活動状況を発信した。

ホームページアクセス数は、平成 20 年 3 月 31 日現在、累計で 259,107 アクセスであっ
たのが、平成 20 年 9 月 30 日現在では、367,407 アクセス(4 月～9 月は 108,300 アクセ
ス、前年同期比 138% : 前年度 4 月～9 月 78,413 アクセス)となっている。1 日あたりで
は 550 件程度のアクセス数となっており、アクセスは平日が多い。

また、北海道の CSR 情報に関するサイトとして運営している「北の CSR」では、平成
20 年 3 月 30 日現在、累計で 101,347 アクセスであったのが、平成 20 年 9 月 30 日現在で
は、173,000 アクセス[4 月～9 月は 71,653 アクセス、前年同期比 172% : 前年度 4 月～
9 月は 41,667 アクセス)となっており、1 日あたりでは 350 件程度のアクセス数となっ
ている。

イ イベント・会議

各地で開催された環境に関わるイベントに参加し、様々な活動をしている人とのネット

ワークを広げた。参加したイベント・会議の内容等については、ホームページを通じて発信した。詳細を表 12 に示す。

表 12 参加したイベント・会議等

開催日	イベント・会議名	主 催	会場（開催地）
4月26日	ベロタクシー出発セレモニー		さっぽろシャワー通り (札幌市)
5月26日	国際保健セミナー・シリーズ 「沖縄から洞爺湖へ」 in 北海道札幌	財団法人北海道国際交流センター	JICA札幌 (札幌市)
6月19日 ～21日	環境総合展		札幌ドーム (札幌市)
7月5日 ～7日	市民フォーラム		札幌コンベンションセンター (札幌市)
7月11日	「社会企業研究会」設立記念講演会		かでの2・7 (札幌市)
7月18日	「エコツーリズム推進法」北海道ブロック説明会	環境省自然環境局自然ふれあい推進室 環境省北海道地方環境事務所	共済ホール (札幌市)
7月18日	平成20年版環境・循環型社会白書を読む会	環境省北海道地方環境事務所	札幌市環境プラザ (札幌市)
7月29日	円山動物園 カフェオープン		札幌市円山動物園 (札幌市)
8月9日	持続可能な開発のための教育(ESD)連続セミナー第2回	G8サミット NGO フォーラム 環境ユニット、北海道交際交流センター	北海道交際交流センター (函館市)
8月21日	地域CSRセミナー	北海道NPOサポートセンター	札幌エルプラザ (札幌市)
9月7日	はこだてエコフェスタ	環境フェスティバル実行委員会事務局	函館港 緑の島 (函館市)
9月10日	地域振興に関する意見交換会	北海道	石狩支庁4階大会議室 (札幌市)
9月23日	ESD 地域ワークショップ	ESD-J	札幌市環境プラザ (札幌市)
9月25日	たっぷり さっぽろ水の旅	環境省北海道地方環境事務所	札幌市内

(5) EPO 北海道の運営

ア 業務の実施体制等

- ・業務は常駐スタッフ 2 名で行った。8 月末日付けで鎌田めぐみが退職し、9 月 1 日より有坂美紀が勤務している。
- ・業務日は原則として月～金曜日とし、土・日曜日、祝日は休業とした。
- ・業務時間は原則 10 時から 18 時とした。
- ・常駐スタッフ、北海道地方環境事務所及び財団法人北海道環境財団の三者で、表 13 に示すとおりスタッフミーティングを開催した。

表 13 スタッフミーティング開催状況

開催日	主な議題
4 月 15 日	運営協議会の打ち合わせ
5 月 27 日	1. 環境総合展 2. EPO パンフレット改訂版 3. EPO 連絡会に向けた意見出し 4. その他（予定確認）
7 月 10 日	1. コミュニティ・ファンド概要説明 2. ESD はこだてセミナー 3. ガリバー研修&ボランティア活動コーディネート進捗 4. Panasonic NPO サポートファンド進捗－現段階で参加 5 団体 5. GEDC 6. インターン進捗 7. 十勝、富良野、稚内等意見交換会準備 8. 中間支援 9. その他（ポスト鎌田の応募状況など）
8 月 1 日	1. コミュニティ・ファンド 2. ESD はこだてセミナー、ESD パンフ増刷、ESD 地域セミナー 3. ガリバー研修&ボランティア活動コーディネート報告 4. Panasonic NPO サポートファンド報告 5. 意見交換会進捗 6. 中間支援 7. インターン 8. その他（新しいスタッフなど）
9 月 5 日	1. 意見交換会の準備進捗状況 2. 運営協議会（次回 10 月中旬予定）など 3. 今月の予定・はこだてエコフェスタ（7 日） 4. 環境と仕事セミナー（9 日） 5. ESD はこだてセミナー（27 日） 6. EPO ミーティング（28 日 in 東京）など

イ ホームページの運用

EPO 北海道スタッフの活動状況や事業の実施状況、関連情報等を発信した。

ウ 情報の公開・配布

環境省刊行物をはじめとした EPO 北海道の図書資料や掲示情報等について、求めに応じて公開・配布した。

エ 運営協議会

平成 20 年第 1 回 EPO 北海道運営協議会を、4 月 22 日（火）に開催した。参加者は、EPO 北海道協議会委員 12 名中 9 名、北海道地方環境事務所 4 名、財団法人北海道環境財団 2 名、EPO 北海道スタッフ 2 名の計 17 名であった（表 14）。平成 19 年度の事業報告を行い、平成 20 年度の事業計画について諮った。

表 14 平成 20 年度第 1 回 EPO 北海道運営協議会

タイトル	平成 20 年度第 1 回 EPO 北海道運営協議会	
目的	EPO 北海道の事業運営について幅広い関係者の参画、協議を得て実施するためにご意見を伺う。	
日時	4 月 22 日（火） 9:30～12:00	
会場	北海道環境サポートセンター	
参加者	17 名	
概要	(1) 平成 19 年度の事業報告について (2) 平成 20 年度の事業計画について (3) その他	
主催	EPO 北海道	

オ 環境カウンセラーとの協力・連携

北海道地方環境事務所と NPO 法人北海道環境カウンセラー協会との契約に基づき、同協会から週 2 回、環境カウンセラー 2 名の派遣を受け、環境教育や CSR 等、様々なアドバイスを受けた。

また、6 月 1 日（日）には、同協会、環境学習フォーラム北海道との共催で、「地球温暖化防止をめざす環境学習セミナー ～豊平峡ダム・定山溪ダム見学会に行こう～」を開催した（表 15）。

表 15 地球温暖化防止をめざす環境学習セミナー

タイトル	地球温暖化防止をめざす環境学習セミナー ～豊平峡ダム・定山溪ダム見学会に行こう～	
目的	エネルギーと水について現場見学を合わせて、エネルギー事情や水力発電の占める位置、水環境について学ぶ。	
日時	6 月 1 日（日） 8:45～17:00	
会場	豊平峡ダム、定山溪ダム	
参加者	38 名	
概要	<p>1 日のバスツアーで、札幌の水がめである「豊平峡ダム」と「定山溪ダム」を見学して、現場の担当者の説明や参加者同士の意見交換から、ダムの役割や施設の仕組み、水力発電の位置付けなどについて学んだ。</p> <p>両ダムとも、人口増加の著しい札幌市の洪水対策と飲料水対策を主目的として造られている。発電用でもある。パンフレットやビデオ等で、発電や親水空間の存在が環境面の取組としてアピールされている。温暖化防止という観点から、水力発電等、自然エネルギーへの注目が高まっているが、人口増加による水需要の増加・土地利用の過密化などから、防災も重要という点について理解が必要である。</p>	
成果	参加者は 38 名で、学生が多くを占めていた。	
課題	ダムの見学を通じて、その機能や重要性について学ぶところに重点が置かれた内容だったため、環境の視点から議論を行う時間が少なかった。温暖化防止と通じたメッセージ性が薄く、社会見学のような印象が強く残ってしまった。	
主催・共催	NPO 法人北海道環境カウンセラー協会、環境学習フォーラム北海道、EPO 北海道	

北海道地方環境事務所請負業務

平成 20 年度 4～9 月 北海道環境パートナーシップオフィス運營業務報告書

平成 20 年 10 月

財団法人 北海道環境財団

〒060-0004 札幌市中央区北 4 条西 4 丁目 1 番 伊藤・加藤ビル 4 階

TEL : 011-218-7811 FAX : 011-218-7812

URL : <http://www.heco-spc.or.jp>
